

1997年度 社会学部最優秀卒業論文賞（安田賞）受賞論文

選考委員代表 安藤文四郎

本年度の安田賞には、別表のように5つのゼミから5点の論文が推薦された。選考の結果、その内の2点が最優秀論文に選ばれ、その他の3点が優秀論文となった。

推薦された卒業論文はいずれもなかなかの力作であったが、最優秀論文に選ばれた2点については、テーマの重要性、資料の質・量、分析的確さという点で、特に傑出したものであった。

最優秀論文2点のそれぞれの長所は、所属するゼミの指導教授による推薦文に書かれている通りであるが、これらの論文で取り上げられた「公的介護保険制度」の問題と「中国（およびASEAN）における日本企業の展開」という問題は、どちらも緊急性がきわめて高く、それらの問題に対する選択の結果によって、日本の社会と経済の将来のありようが大きく左右されるという点で、この2つの論文には共通するものがあった。

このように、最優秀論文の2点は、切迫した重要性を持つ問題に正面から取り組んでいること、そして周到な資料の収集とその検討をふまえて、具体的な提言をまとめているなどの点で、今年度の社会学部卒業生を代表するにふさわしい、高い水準の卒業論文であった。

最優秀論文	卒業論文名
木村逸人 (川久保美智子ゼミ)	中国における日中合弁企業の現状
高橋俊雄 (浅野仁ゼミ)	公的介護保険制度の課題と今後の方向 — 日独の意識調査を踏まえて —
優秀論文	卒業論文名
佐藤るみ子 三嶋晶子 (芝野松次郎ゼミ)	マルチメディア対応 — 児童虐待処遇決定マニュアルの作成 —
柴山めぐみ (芝田正夫ゼミ)	擬似イベント論 — ブーアスティン『幻影の時代』の再考とダイアナ元妃のイジメの調査 —
与野木京子 (牧正英ゼミ)	休暇をめぐる現状とこれからの休暇について